平成 25 年度東京文化発信プロジェクト事業の評価結果

平成 27 年３月

東京都と東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）は、東京芸術文化評議会の提案に基づき、「東京から世界へ　新たな文化の創造・発信」をキーワードに、平成 20 年 4 月に「東京文化発信プロジェクト」を立ち上げました。以来、東京に集積する人材・施設などの文化資源を最大限に活用しながら、以下の４つの目標を目指し、芸術団体やアートＮＰＯ等と協力して、幅広い分野の文化事業を展開してきました。

１　世界的なフェスティバルの開催を通じて、東京における芸術文化の創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める。

２　次世代の担い手となる子供・青少年たちへ、芸術文化の多様な創造活動を体験する機会を提供し、創造性に満ちた豊かな感性の育成を目指す。

３　アーティストと市民が協働するプログラムをまちなかで展開するとともに、創造型ＮＰＯ等と協働し、教育、環境など他分野と連携しながら、地域の文化創造拠点を生み出す。

４　「世界的な文化創造都市・東京」を国内外にアピールするとともに、国内外の関係者が東京に集うプログラムや事業を展開し、ネットワークを強化する。

この「東京文化発信プロジェクト」の継続的な改善を目指し、平成 25 年度に実施した事業を対象として、事業評価を実施し、東京芸術文化評議会に提出しましたので、公表します。

東京文化発信プロジェクト　事業評価概要

１　対象

（１）東京文化発信プロジェクトで実施した事業のうち以下のもの（計 21 事業）

<table>
<tr><th>世界的なフェスティバルの開催を通じて、東京における芸術文化の創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業</th><th>次世代の担い手となる子供・青少年たちへ、芸術文化の多様な創造活動を体験する機会を提供し、創造性に満ちた豊かな感性の育成を目指す事業</th></tr>
<tr><td rowspan="5">【伝統芸能】　・東京発・伝統ＷＡ感動　伝統芸能公演
・東京発・伝統ＷＡ感動　東京大茶会 2013

【演劇】　・芸劇セレクション

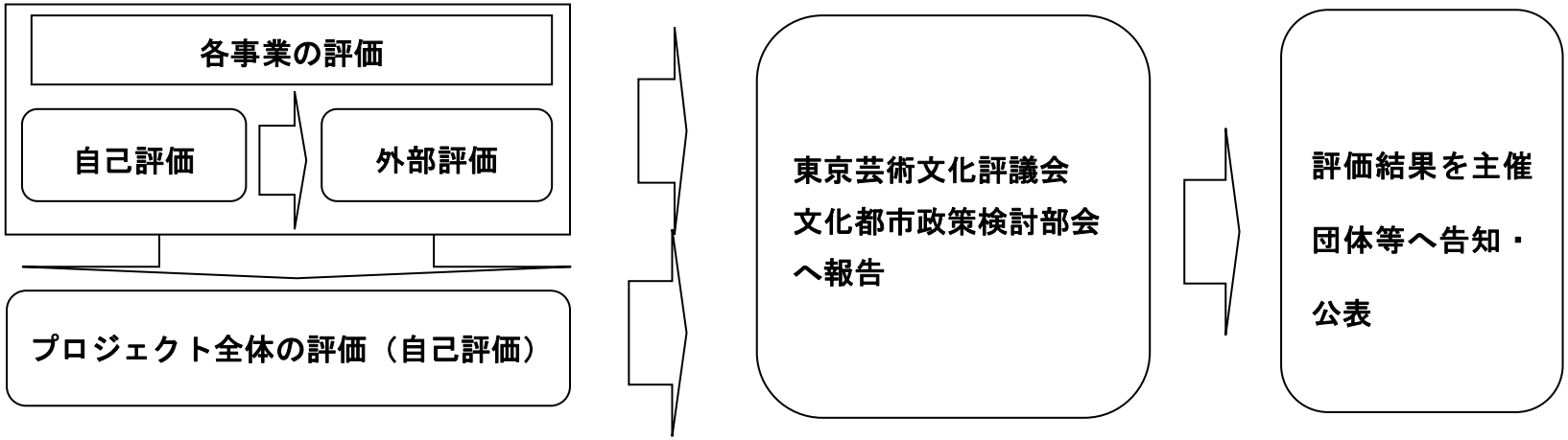
【音楽】　・Music Weeks in TOKYO 2013
・プレミアムコンサート
・サウンド・ライブ・トーキョー

【美術･映像】　・東京アートミーティング
・恵比寿映像祭</td><td>・東京発・伝統ＷＡ感動　キッズ伝統芸能体験
・パフォーマンスキッズ・トーキョー
・TACT/FESTIVAL 2013
・青少年のための舞台芸術体験プログラム
・Museum Start あいうえの</td></tr>
<tr><td>アーティストと市民が協働するプログラムをまちなかで展開するとともに、創造型ＮＰＯ等と協働し、教育、環境など他分野と連携しながら、地域の文化創造拠点を生み出す事業</td></tr>
<tr><td>・東京アートポイント計画</td></tr>
<tr><td>「世界的な文化創造都市・東京」を国内外にアピールするとともに、国内外の関係者が東京に集うプログラムや事業を展開し、ネットワークを強化する事業</td></tr>
<tr><td>・国際会議「文化の力・東京会議 2013」
・国際招聘プログラム</td></tr>
</table>

（２）東京文化発信プロジェクト全体

２　評価の手法

（１）フロー図



（２）各事業の評価

①　評価者

外部評価者は下表のとおりである（五十音順）。

氏名	肩書き（評価当時）
岩渕　潤子	慶応義塾大学デジタルメディア・コンテンツ総合研究機構（DMC）教授
大西　泰輔	財団法人軽井沢大賀ホール常任理事　支配人
苅宿　俊文	青山学院大学ヒューマンイノベーション研究センター教授
柴田　克彦	音楽ライター
芹沢　高志	P3 art and environment エグゼクティブ・ディレクター、AAF 事務局長
曽田　修司	跡見学園女子大学教授
長田　謙一	名古屋芸術大学大学院美術研究科／美術学部教授
久野　敦子	公益社団法人企業メセナ協議会プログラム・ディレクター
丸茂　美恵子	日本大学芸術学部演劇学科教授
村井　良子	PLANNING LAB.LTD. 代表取締役
山﨑　篤典	島根県立いわみ芸術劇場名誉館長
渡辺　弘	公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団業務執行理事兼事業部長

② 評価の視点

目標	視点
１　世界的なフェスティバルの開催を通じて、東京における芸術文化の創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	１　事業の内容 ２　芸術文化活動を支える人材の育成 ３　広報（事前・事後） ４　協力・支援の確保 ５　その他 ６　総括
２　次世代の担い手となる子供・青少年たちへ、芸術文化の多様な創造活動を体験する機会を提供し、創造性に満ちた豊かな感性の育成を目指す事業	１　事業の内容 ２　芸術文化活動を担う人材の育成 ３から６まで　目標１と同じ
３　アーティストと市民が協働するプログラムをまちなかで展開するとともに、創造型ＮＰＯ等と協働し、教育、環境など他分野と連携しながら、地域の文化創造拠点を生み出す事業	１　事業の内容 ２　パートナーとなる団体の育成 ３から６まで　目標１と同じ
４　「世界的な文化創造都市・東京」を国内外にアピールするとともに、国内外の関係者が東京に集うプログラムや事業を展開し、ネットワークを強化する事業	１から６まで　目標１と同じ

東京文化発信プロジェクト　全体評価

【評価の視点】

目標	視点
世界的なフェスティバルの開催を通じて、東京における芸術文化の創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	・ジャンル ・手段（質が高く独自性のある国際芸術フェスティバルや文化イベントの開催） ・発信（広報、プロモーション） ・社会的インパクト
次世代の担い手となる子供・青少年たちへ、芸術文化の多様な創造活動を体験する機会を提供し、創造性に満ちた豊かな感性の育成を目指す事業	・ジャンル ・手段（本物の芸術文化･アーティストに触れる機会の提供） ・発信（広報、プロモーション） ・社会的インパクト
アーティストと市民が協働するプログラムをまちなかで展開するとともに、創造型ＮＰＯ等と協働し、教育、環境など他分野と連携しながら、地域の文化創造拠点を生み出す事業	・ジャンル ・手段（アーティストと市民が協働するアートプログラムを、まちなかで他分野とも連携しながら実施） ・発信（広報、プロモーション） ・社会的インパクト
「世界的な文化創造都市・東京」を国内外にアピールするとともに、国内外の関係者が東京に集うプログラムや事業を展開し、ネットワークを強化する事業	・ジャンル ・手段（国内外へのアピール度が高く、関係者が東京に集うプログラム等の展開） ・発信（広報、プロモーション） ・社会的インパクト
総括	事業全体の成果と課題、課題に対応するために今後行う取組

【評価】

成　　果	○伝統、演劇、音楽、美術、映像など、多様な分野で事業を展開し、4つの目標実現に向けて、着実に成果を挙げた。 ○東京の文化を紹介する、年4回発行のフリーペーパーを創刊し、東京の文化の発信力を高めた。また、独自企画による FM ラジオ番組の放送などユーザーの興味、参加意欲の向上を図った。 ○フェスティバル分野では、「伝統芸能公演」で、新たに公募企画によるワークショップを実施するとともに、伝統芸能を身近に感じてもらえるよう、プログラムを工夫するなど、観客の裾野拡大を図った。「Music Weeks in TOKYO」は、有名なアーティストを起用するなど、注目度の高いプログラムを実施した結果、入場者数が増加した。 ○キッズ・ユース分野では、「キッズ伝統芸能体験」や「パフォーマンスキッズ・トーキョー」が、子供たちが本物の芸術を体験できる貴重なプログラムとして常に高い評価を得ている。また、美術分野の新規事業として、「Museum Start あいうえの」を開始し、体験を通して主体的に文化資源と関わることができる環境づくりを行った。 ○アートポイント計画では、確実に地域における交流拠点が形成されつつあり、事業実施エリアの自治体との継続的な連携に基づき事業を展開した。「墨東まち見世アートプラットホーム」など、目標であった地域のプラットホームの形成を達成した事業もある。 ○ネットワーキング事業では、「文化の力・東京会議」を開催するとともに、海外から専門家等を招聘し、引き続きネットワークの強化に取り組んだ。
課　　題	○プログラムによっては認知度の高まっているものもあるが、国内への発信はもとより、海外への発信力はまだ不十分であり、多様な媒体を活用し、更なる戦略的な広報に取り組んでいく必要がある。 ○フェスティバル分野では、回数を重ねることにより、都民の間に定着しつつある事業もあるが、更なる魅力の発信と発展的な継続に取り組んでいくことが必要である。 ○キッズ・ユース分野では、既存のプログラム内容の充実を図りながら、より身近で参加しやすいプログラムを構築していく必要がある。 ○アートポイント計画では、地域における交流拠点の拡充に向けて、新たなNPOの事業支援を行っていく必要がある。 ○ネットワーキング事業では、国際会議と国際招聘プログラムを同時期に実施する等、効率化を図り、更なる交流の促進によるネットワークの形成を図っていくことが課題である。

今後の取組	○6年間の実績をふまえて、オリンピック開催も見据えながら、個々のプログラムについても見直しを行い、内容を充実させ、更に効果的な事業展開ができるよう取組む。 ○オリンピック文化プログラムも視野に入れて、アーツカウンシル東京と連携を図りながら、戦略的に事業を展開していく。 ○プロジェクト全体の発信力をより高めるため、国内外の様々な媒体を活用し、更に効果的な広報を展開していく。 ○フェスティバル分野では、一流の実演家やアーティストを起用した本格的な公演を開催するとともに、誰もが気軽に参加・体験することができるプログラムの充実、独自性のある取組等を行い、事業の充実を図っていく。 ○キッズ・ユース分野では、これまでの事業実績を踏まえ、事業内容を工夫し、より多くの子供たちが参加しやすいプログラムを提供していく。また、各分野の将来的な担い手や事業を担うアーティスト、スタッフなど、人材の発掘・育成も視野にいれて事業を実施していく。 ○アートポイント計画では、新規NPOを開拓するとともに、円滑なスタートが切れるよう、人材育成や事業展開の面で的確な支援を行っていく。 ○ネットワーキング事業では、海外の文化・芸術関係者と国内関係者との一層の交流を図るとともに、プログラムの実施時期を見直すなど、より効率的な事業執行を図っていく。

事業名	東京発・伝統ＷＡ感動　伝統芸能公演	事業開始	平成２１年度
政策目標	世界的なフェスティバルの開催を通じて、東京における芸術文化の創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	ジャンル	伝統芸能
事業のねらい	長い歴史の中で育まれ、江戸・東京で受け継がれ発展させてきた伝統的な邦楽・日本舞踊・寄席芸などを、固定客層に対してだけでなく若い層や馴染みのない層も取り込み広く普及させるとともに、新しい創造を促し、日本独自の文化として世界に発信していく。		
内　容	平成 25 年度は、東京文化会館大ホールで開催した「音の息吹き」を中心に、多様なジャンルの伝統芸能を幅広く展開するフェスティバルとして実施した。 【開催日及び会場】1、大江戸寄席と花街のおどり その三　―お座敷遊び―/9 月 16 日／有楽町朝日ホール 2、KAGURA meets JAZZ/9 月 20 日／三越劇場 3、音の息吹き/10 月 5 日／東京文化会館大ホール 4、邦楽へのいざない　―古典文学の情景―/11 月 1 日／文京シビックホール小ホール 5、第 14 回多摩川流域郷土芸能フェスティバル/12 月 1 日／狛江エコルマホール 6、和の魅力発見ｼﾘｰｽﾞ Traditional +(ﾄﾗﾃﾞｨｼｮﾅﾙﾌﾟﾗｽ)【vol.4】/12 月 8 日／スパイラル　ホール 7、日本の伝統芸能×ストリートダンス/12 月 14 日　／日暮里サニーホール　（2回公演） 8、伝統芸能・面白体験ワールド/26 年 1 月 12 日／八王子市芸術文化会館（いちょうホール）小ホール 【来場者数】　4,316 人		

成　　果	課　　題	今後の方向性
●事業継続５年目であり、「大江戸寄席と花街のおどり」や「Traditional＋」などの公演が、シリーズ的に行われており、企画内容の安定性を図ることができた。 ●区部及び多摩地域において、それぞれ公募企画を導入するなど、特色ある事業を実施することができた。 ●高校生が伝統芸能を取り入れたストリートダンスを発表する公演を実施するなど、新たな取り組みを行うことができた。	■取材依頼など、有料広告以外のＰＲ活動を充実させていく必要がある。 ■これまで参加した観客等以外にも、より多くの方々に伝統芸能の良さを理解し、支援してもらうことが必要である。 ■現在の集客率を維持していくこと。	区部及び多摩地域において、それぞれ公募企画を実施するなど、特色ある事業を実施することができた。また、高校生が伝統芸能を取り入れたストリートダンスを発表する公演を実施するなど、新たな取組を行うことができた。今後も広報を強化するとともに、引き続き、新たな観客層の獲得に向けてプログラムを充実させていく。

事業名	東京発・伝統ＷＡ感動　東京大茶会２０１３	事業開始	平成２０年度
政策目標	世界的なフェスティバルの開催を通じて、東京における芸術文化の創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	ジャンル	伝統芸能
事業のねらい	日本の茶文化についての理解と親しみを深め、今後の茶文化の継承発展と普及に努めるとともに、日本の代表的な伝統文化として観光を含めた海外発信を図る。		
内　容	和の心、茶の心を都民はじめ、東京を訪れる外国人や多くの方にも楽しんでもらうことを目的として、伝統文化・芸能の魅力を国内外に向けてアピールし、その普及と活性化を図る「東京発・伝統WA感動」事業のプログラムの一つとして実施。江戸東京たてもの園（9月28日～29日）と、浜離宮恩賜庭園（10月12日～13日）の2か所で開催した。 様々な流派による伝統的な茶席や野点のほか、２人１組でお茶を点てることから体験できる「茶道はじめて体験」や英語で解説をする「イングリッシュ野点」、子供向けに「子供のための茶道教室」、高校生による「高校生野点」を実施。江戸・東京の粋な文化を紹介するお店が立ち並び、日本の伝統文化を楽しんでもらうステージイベントを設けるなどの工夫を凝らし、誰でも気軽に参加できる事業となった。 【開催日及び会場】9月28日、29日／ 江戸東京たてもの園 10月12日、13日／ 浜離宮恩賜庭園 【来場者数】　22,900人		

成　　果	課　　題	今後の方向性
●歴史的建造物がある江戸東京たてもの園や、文化財である浜離宮恩賜庭園を使用し、多くの参加者に茶文化の魅力をＰＲできた。 ●様々なメディアに取り上げられ、「気軽に楽しめる茶会」をＰＲすることができた。 ●茶道連盟などの協力体制があっての事業であり、その協力が成果につながっている。	■若者や外国人等、より幅広い層への情報発信を充実させていく必要がある。 ■外国人がより理解を深める工夫が必要である。 ■より多くの方々が茶会を体験できるような工夫が必要である。	子供や外国人の方々にも日本の伝統文化に触れていただけるよう、流派を超えた茶席を設けるなど、質、構成ともに充実したプログラムを展開し、「茶文化」の魅力をPRすることができた。今後も企画内容や事業内容の充実を図り、より多くの参加者にお茶の文化の魅力を発信していく。

事業名	芸劇セレクション	事業開始	平成２１年度
政策目標	世界的なフェスティバルの開催を通じて、東京における芸術文化の創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	ジャンル	演劇
事業のねらい	若手アーティストの育成、東京芸術劇場が自らプロデュースし、作品を創造発信する事業、海外のアーティストとの共同制作、そして海外からの良質な作品の招聘上演といった、多岐にわたるプログラムを実施し、当劇場の存在を国内外にアピールする。		
内　容	芸劇 eyes 若手育成は、若手カンパニーをフィーチャーし、今後の東京の演劇シーンを担うことが期待できるアーティストに、更なる活躍を促すことを目的として実施した。創造発信事業は、企画性に富み、東京の現代演劇の面白さを世界にアピールできるような作品の創造を行い、展開した。国際創造発信普及事業は、これまで日本であまり知られていない世界の舞台の魅力を伝えることを目的として、良質な舞台の招聘及び国際共同制作を行った。 【開催日及び会場】芸劇 eyes 若手育成　芸劇 eyes 番外編女性作家ショーケース「God save the Queen」 /9 月 12 日～16 日　/全 7 回公演 創造発信事業　Roots Vol.1「ストリッパー物語」関連企画特別対談/ 5 月 25 日/全 1 回 Roots Vol.1「ストリッパー物語」/7 月 10 日～28 日/全 20 回公演 「障子の国のティンカーベル」/26 年 2 月 13 日～17 日・20 日～23 日/全 11 回公演 「おそるべき親たち」/26 年 3 月 2 日～16 日/全 13 回公演 国際創造発信普及事業　海外招聘公演①　パリ国立シャイヨー劇場「トロカデロのドン・キホーテ」/12 月 13 日～15 日/全 3 回公演 海外招聘公演②　イサンゴ・アンサンブル「プッチーニのラ・ボエーム」/12 月 19 日～22 日/全 5 回公演　会場全て東京芸術劇場 【来場者数】　14, 834 人		

成　　果	課　　題	今後の方向性
●それぞれの公演が、内容及び質の面において注目を集め、評価を得たことで、東京芸術劇場の存在感をさらに高めることができた。 ●アーツアカデミーの研修生を現場の制作スタッフとして関与させたことは、人材の教育機会として貴重であった。 ●海外招聘公演の振付家を事前に招聘し、記者懇談会等を実施したことは、情報の露出を増やす効果となった。	■海外招聘公演の招聘時期、広報体制等に課題がある。 ■事業運営のノウハウの蓄積ができているか、検証が必要である。 ■観客側にあまり知られていない作品や団体等を観せることに壁があるという指摘は重要である。この課題にどう対処していくか工夫が必要である。	それぞれの公演が内容及び質の面において注目を集め、評価を得たことで、東京芸術劇場の存在感をさらに高めることができた。今後は、公演だけでなく、人材育成・普及活動の面においてもさらに充実を図っていく。

事業名	Music Weeks in TOKYO 2013	事業開始	平成２２年度
政策目標	世界的なフェスティバルの開催を通じて、東京における芸術文化の創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	ジャンル	音楽
事業のねらい	世界的な音楽都市である東京でこそできる音楽文化の活性化、創造力の向上を目指し、「創造性」を柱とした「参加型」の事業を展開。併せて、次世代をリードする世界に通用するアーティストの養成を目指す。		
内　容	【メイン公演】 ・小曽根真&パキート・デリベラ“Jazz meets Classic” with 東京都交響楽団／10 月 26 日東京文化会館、10 月 27 日パルテノン多摩 ・特別企画小曽根真ワークショップ：「自分でみつける音楽」／11 月 2 日東京文化会館 【プラチナ・シリーズ】(6 公演：東京文化会館)、【まちなかコンサート】まちなかスペシャル 6 月 21 日、10 月 20 日東京文化会館 ・芸術の秋、音楽さんぽ（28 公演：都内各所） 【ミュージック・エデュケーション・プログラム】コラボレーション・プログラム(10 月 16 日ワークショップ　江戸東京博物館ホール　11 月 3 日マスタークラス　東京文化会館)、国際連携企画～カーザ・ダ・ムジカ～（12 月 6 日～26 年 3 月 13 日　東京文化会館、東京芸術劇場、文京シビックセンター及びアカデミー音羽、台東区大正幼稚園、カーザ・ダ・ムジカ内スタジオ） 【ミュージック・ウィークス・イン・トーキョー2013 連携事業】東京の芸術創造と環境の向上（教育支援）事業　（7 月 29 日　サントリーホール)、チェロ演奏体験事業　（9 月 29 日～12 月 1 日　八王子市芸術文化会館ほか） 【来場者数】　16,886 人		

成　　果	課　　題	今後の方向性
●注目度、動員力の高い企画やプログラムであったため、総入場者数は目標を大きく上回った。 ●国際連携企画を通じて、ファシリテーターの発掘と育成が実現でき、国内外に大きく発信する事業展開を実現した。 ●責任感を持ってスタッフが行動しており、事業がスムーズに進行した。	■今後のプログラムを企画するための専門性の高い人材の一層の確保が必要である。 ■音楽フェスティバルとしての認知度を高め、客層の拡大と注目度の向上を目指すことが必要である。 ■質の高いプログラムを提供し、都民が期待感を抱くフェスティバルへとなる条件を整える必要がある。	注目度、動員力の高い企画やプログラムにより、多くの来場者に音楽に親しむ機会を創出した。今後は、これまでに築いた文化施設等との連携、協力体制を維持し、引き続き魅力ある事業を展開していく。

事業名	プレミアムコンサート	事業開始	平成２４年度
政策目標	世界的なフェスティバルの開催を通じて、東京における芸術文化の創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	ジャンル	音楽
事業のねらい	子供から大人まで幅広い人々がクラシック音楽を身近に感じられるよう、「首都東京の音楽大使」である東京都交響楽団による観客参加型のコンサートを、多摩・島しょ地域などを含む都内各所で展開し、東京の音楽文化の発信に寄与する。		
内　容	東京の音楽文化の発信に寄与することを目的として、「首都東京の音楽大使」である東京都交響楽団が、多摩地域での１０公演（オーケストラ公演６、アンサンブル公演４）、島しょ地域の大島、三宅島での４公演（アンサンブル公演）を実施。 【開催日及び会場】6月～26 年3月（全14公演） ルネこだいら、府中の森芸術劇場、武蔵村山市民会館、日の出町立平井中学校体育館、檜原村やすらぎの里、奥多摩文化会館、三宅村コミュニティーセンター、羽村市生涯学習センターゆとろぎ、武蔵野市民文化会館、瑞穂町スカイホール、小金井市民交流センター、大島町開発総合センター 【来場者数】　6,485 人		

成　　果	課　　題	今後の方向性
●本格的なクラシックコンサートやオーケストラ公演が少ない多摩、島しょ地域において、公民館・文化施設を活用し、幅広く公演を開催した。 ●アンサンブル公演において、若手奏者を積極的に登用した点は、若手アーティスト育成の面で大いに評価できる。 ●多岐にわたって効果的な広報活動を行うことができた。 ●楽器・指揮体験など、体験型プログラムを取り入れたことで、趣味や教養を広げる一助となった。	■会場の周辺地域まで広く事業を周知し、より多くの方が参加・体験をできるようにする必要がある。 ■楽器体験の参加者が少なかった会場は、告知方法を見直す必要がある。 ■音楽文化の普及につながるよう、若い世代へのアプローチに重点的に取り組むことが必要である。	楽器・指揮体験などプログラム構成を工夫し、音楽に触れる機会を創出するとともに、本格的なクラシックコンサート等が少ない多摩・島しょ地域での公演により、東京の音楽文化の発信に寄与した。今後は、地元自治体等から幅広い協力を得て広報を強化し、事業の一層のPRを図る。また、オリンピックに関連したプログラム上の工夫を行うなど2020年東京大会に向けた気運醸成を図っていく。

事業名	サウンド・ライブ・トーキョー	事業開始	平成２４年度
政策目標	世界的なフェスティバルの開催を通じて、東京における芸術文化の創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	ジャンル	音楽
事業のねらい	音楽及び「サウンド」に関わる先鋭的な表現活動をジャンル横断的・国際的に紹介し、東京の文化発信力とハブシティとしてのキャパシティを示す。		
内　容	音楽や「サウンド」に関する重層的な体験となることを狙い、世代、表現スタイルが全く異なり、かつそれぞれのジャンルで高い達成度を示しているアーティストが出演・参加する、密度の高いイベントを実施した。 【開催日及び会場】　期間:9月 21 日～10 月6日 参加アーティスト:アント・ハンプトン、ティム・エッチェルス、倉地久美夫、マヘル・シャラル・ハシュ・バズ、飴屋法水、工藤冬里、クリスティン・スン・キム、大工哲弘、アヤルハーン、鈴木昭男、灰野敬二、松崎順一、小林ラヂオ、堀尾寛太、嶺川貴子　ほか 会場:東京文化会館、東京キネマ倶楽部、上野恩賜公園野外ステージ(水上音楽堂)、東京都立中央図書館、スーパー・デラックス、VACANT 【来場者数】　　延 1,794　人		

成　　果	課　　題	今後の方向性
●音と音楽の可能性を追求する事業として、少しずつだが認知されており、昨年以上の集客があった。 ●公募企画の実施、初来日海外アーティストの起用、ボランティアスタッフの育成は有意義な成果となった。 ●アートに興味を持っている観客層への幅広いアプローチを行った。	■専門家やコアな観客層以外の、一般の音楽ファンに理解させるのが、非常に難しい事業である。 ■さらなる集客が課題である。 ■より広い層を意識した広報活動が必要である。	音と音楽の可能性を追求する事業として、公募企画の実施、初来日海外アーティストの起用など、多角的なプログラムを展開した。今後は、より幅広い層を意識した広報活動を行い、集客に結び付けていく。

事業名	東京アートミーティング	事業開始	平成２４年度
政策目標	世界的なフェスティバルの開催を通じて、東京における芸術文化の創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	ジャンル	美術 映像
事業のねらい	現代アートを中心に、音楽という異なる表現ジャンル、及びその他の専門領域が出会うことで、新しいアートの可能性を提示する。		
内　容	第４回目となる本展は、共同キュレーターにデザイン史研究における第一人者の柏木博氏をアドバイザーとして、商品デザインから子供教育番組まで多岐にわたって活動するグラフィック・デザイナーの佐藤卓氏及び最先端のテクノロジーからデザインの未来へのミッションを洞察するMITメディア・ラボ副所長の石井裕氏を迎え、歴史、現在、未来を横断する視点で実施した。 また、関連プログラムとして、出品作家によるトークとデモンストレーション、さらに、東京藝術大学におけるプログラムとして関連展示、講演会を行った。 【開催日及び会場】うさぎスマッシュ展　世界に触れる方法（デザイン）10月3日～26年1月19日／東京都現代美術館 【来場者数】　　55,247人		

成　　果	課　　題	今後の方向性
●アンケートでは、「このような展示をもっとやってほしい。」というコメントが予想以上に寄せられ、観客のニーズに合った展覧会を提供できたと考えられる。 ●メディアに出品作家が取り上げられ、反響が大きかった。 ●デザインとアートの可能性及び必要性を同時に感じさせる展覧会であり、重要な役割を担っている。 ●タイトルにもあるウサギの耳をつけたオーディオガイド等、話題性のある取組が功を奏して、幅広い集客につながった。	■選定を含める企画段階で、議論と調査のための時間を要した。 ■一部の作品が「わかりにくい」という観客の声に十分に応えることができたか、考える余地がある。	デザインとアートの可能性及び必要性を同時に感じさせる展覧会であり、メディアにも取り上げられ、幅広い集客につながった。観客からも好評で、ニーズに合った展覧会を提供できたと考えられる。今後は、準備期間に余裕を持ち、計画的に実施できるよう、検討していく。

成　　果	課　　題	今後の方向性

事業名	**恵比寿映像祭**	**事業開始**	平成２０年度
政策目標	世界的なフェスティバルの開催を通じて、東京における芸術文化の創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	**ジャンル**	美術 映像
事業のねらい	映像文化の創造、発信及び継承活動の活性化を促進し、文化発信拠点としての東京都及び東京都写真美術館の存在感をアピールする。		
内　容	東京都写真美術館全館および周辺諸施設を会場に、展示、上映、オフサイト・展示、ライブ・イベント、レクチャー、地域連携プログラムなどを複合的に実施した。総合テーマを「トゥルー・カラーズ」と題し、国内外の新旧多彩な作家・作品及びゲストの参加により、ジャンルを横断し、オルタナティブな場を創出する国際的な映像とアートのフェスティバルとなった。 【開催日及び会場】26 年2月7日～ 23 日/東京都写真美術館、恵比寿ガーデンプレイス　ほか 内容:展示、オフサイト・展示、上映（15プログラム）、ライブ・イベント、 シンポジウム、レクチャー、ラウンジ・トーク、地域連携プログラム 【来場者数】　　31,759　人		

成　　果	課　　題	今後の方向性
●改修工事による休館前の最後の映像祭として、内容、スケールともに観客の印象に強く残る内容で、東京における映像文化の発信を担うフェスティバルとしての存在意義を示した。 ●日本でよく知られていない作家の紹介という点で、素晴らしい取組みであった。	■改修工事期間中は、会場の変更などが必要となるが、これまで築き上げてきた恵比寿映像祭のイメージを損なわないよう、内容の充実、広報活動等にさらに力を入れていくことが必要である。 ■ＳＮＳ等のメディアを活用し、露出を増やすべきである。 ■グローバルには意図がわかりやすい企画であったが、日本の観客に意図が伝わっているか検証が必要である。	改修工事による休館前の最後の映像祭として、内容、スケールともに観客の印象に強く残る内容で、東京における映像文化の発信を担うフェスティバルとしての存在意義を示した。今後は、新たな会場でのプログラム構成、会期の変更等に柔軟に対応しながら、内容の充実、広報活動の拡充を目指す。

事業名	東京発・伝統ＷＡ感動　キッズ伝統芸能体験	事業開始	平成２０年度
政策目標	次世代の担い手となる子供・青少年たちへ、芸術文化の多様な創造活動を体験する機会を提供し、創造性に満ちた豊かな感性の育成を目指す事業	ジャンル	伝統芸能
事業のねらい	子供たちが伝統文化を直接、深く体験することで、伝統芸能の世界に触れ、感性を涵養する機会を提供する。このことにより子供たち、ひいては家庭内の伝統芸能に関する興味関心や感性を高め、今後の伝統芸能の継承と発展を支える観客層等の充実を図る。		
内　容	能楽・長唄・三曲・日本舞踊の一流の芸術家が子供たちを直接指導し、その成果をひのき舞台で発表した。能楽、長唄、三曲、日本舞踊の 4 つの領域で、小・中学生・高校生を対象に能楽 6、長唄 4、三曲 4、日本舞踊 3 の全 17 コースを実施した。 【開催日及び会場】 お試し体験 ／ 7月6日、7日 開講 ／ 8月 25 日 ／ 国立能楽堂 お稽古 ／ 9月～26 年3月 ／ 宝生能楽堂、西東京市民会館、杵家会館、新宿文化センター、町田市民ホール、江東区文化センター、東村山市立中央公民館、芸能花伝舎 発表会 ／ 26 年3月21日、27日・28日 ／ 宝生能楽堂、浅草公会堂 ユース特別版 ／ 4月～26 年3月 ／ 都立王子総合高等学校、都立大江戸高等学校 次世代リーダー育成道場 ／ 8月 25 日／ 国立能楽堂 【参加者数・鑑賞者数】 315 人（事業参加者）、219 人（ユース特別版）、2,037 人（発表会）		

成　　果	課　　題	今後の方向性
●様々な伝統芸能のプログラムが整備されており、実演家の人材も充実している。 ●伝統芸能の魅力を体験することができ、子供たちが積極的に稽古に参加している。芸術文化活動を担う人材の育成が図られていると感じる。 ●広報での露出も増えており、効果的なＰＲができている。	■事業開始から６年を経過し、稽古場所、指導法、運営方法等が固定化し、事業スタート時のような緊張感がやや低下しているように見受けられる。 ■コースによっては、定員超過や定員割れがあるため、人数の見直しが必要である。 ■都内の他地域での開催も検討する必要がある。	様々な伝統芸能のプログラムが整備されており、実演家の人材も充実している。伝統芸能の魅力を体験することができ、芸術文化活動を担う人材の育成が図られている。今後は、より身近で参加しやすいプログラムを構築し、事業内容の一層の充実を図っていく。

事業名	パフォーマンスキッズ・トーキョー	事業開始	平成２０年度
政策目標	次世代の担い手となる子供・青少年たちへ、芸術文化の多様な創造活動を体験する機会を提供し、創造性に満ちた豊かな感性の育成を目指す事業	ジャンル	演劇
事業のねらい	ダンスや演劇を通じた、子供たちの自主性・創造性・コミュニケーション能力の向上を図る。		
内　容	ダンスや演劇、音楽などの分野で活動するプロのアーティストを、都内の小中学校やホール・文化施設、児童養護施設に派遣。10 日間程度のワークショップを行い、子供たちが主役のオリジナルの舞台作品をつくりあげる。最後に発表公演を行い、地域や教育・文化各方面の多くの人たちにワークショップの成果を発信する。 【開催日及び会場】 学校　／ 6月～26 年2月／ 都内小学校（10校） 島しょ部　／ 7月～26 年2月 ／ 新島小学校（新島）、三根小学校（八丈島） ホール　／ 7月～26 年3月 ／ 都内施設（5か所） 児童養護施設 ／ 7月～26 年3月 ／クリスマス・ヴィレッジ（足立区）、子供の家（清瀬市）、二葉むさしが丘学園＆ベトレヘム学園（小平市、清瀬市） 【参加者数等】　観客数 6,913 人／参加者数 790 人		

成　　果	課　　題	今後の方向性
●参加した子供達の満足度が高く、本事業の目的である、子供たちの自主性、創造性、コミュニケーション能力の向上などの点において、大きな成果をあげた。 ●実施したホール・文化施設からも、地域の子供を対象とした事業として満足度が高く、内容の充実度や作品の質の高さに対して、高い評価を得た。 ●参加したアーティストにとっても貴重な経験となり、自身の創造性をさらに伸ばすことができた。	■事業の認知度は確実に高まっているが、より広い範囲の人達への告知及びＰＲが必要である。 ■ボランティアスタッフが集まりにくいため、更なる人材育成や発掘が課題である。	参加した子供たちの満足度が高く、本事業の目的である、子供たちの自主性、創造性、コミュニケーション能力の向上などの点において、大きな成果をあげた。実施したホール・文化施設からも内容の充実度や作品の質の高さに対して、高い評価を得た。今後は、事業効果や具体的な成果についての広報活動を充実させていくとともに、計画的にアーティストやコーディネーターの育成を図っていく。

事業名	TACT/FESTIVAL　2013	事業開始	平成２２年度
政策目標	次世代の担い手となる子供・青少年たちへ、芸術文化の多様な創造活動を体験する機会を提供し、創造性に満ちた豊かな感性の育成を目指す事業	ジャンル	演劇
事業のねらい	子供だけでなく大人が鑑賞しても楽しめる質が高く独自性がある海外の舞台作品を招聘、上演し、上質な舞台芸術に触れる機会を提供する。		
内　容	海外から招聘した一流の劇団による演劇の舞台公演や、作品の原作である絵本を使った関連企画を実施した。 【開催日及び会場】　・「Chouf　Ouchouf」／６月６日～９日全４回公演/東京芸術劇場 ・劇団コープス「ひつじ」／６月６日～９日全４回公演/　東京芸術劇場 【参加者数】　2,265 人		

成　　果	課　　題	今後の方向性
●事業開始から4年目を迎え、東京芸術劇場での海外招聘公演も年に2～3本のペースで実施しており、東京芸術劇場が取り組む、演劇を通した海外との交流は、少しずつではあるが着実に進んでいる。 ●舞台芸術スタッフの相互交流を実施し、人材育成のための機会を提供したことは、今後につながる成果である。 ●有料と無料の作品の開演時間をずらすことで、劇場内に観客の流れをつくり、賑わいを創出することができた。	■アーツアカデミー事業の研修生を活用する人材育成を行っているが、企画の初期段階から関与することは難しく、人材育成事業に本格的に取り組む体制がまだ不十分である。 ■少しずつ認知されてきている一方で、それが直接集客に結び付かないという現実がある。様々な媒体を活用し広報を行っているが、アピール力に欠けるため、メディアに取り上げられる機会が少ない。 ■出演団体、作品の知名度が低く、メディアに取り上げられる機会が少ない。	海外招聘公演も年に数本実施しており、東京芸術劇場が取り組む、演劇を通した海外との交流は着実に進んでいる。今後は、出演団体や作品の知名度等を考慮しつつ、誰もが楽しめる作品の招聘を継続していく。

事業名	青少年のための舞台芸術体験プログラム	事業開始	平成２１年度
政策目標	次世代の担い手となる子供・青少年たちへ、芸術文化の多様な創造活動を体験する機会を提供し、創造性に満ちた豊かな感性の育成を目指す事業	ジャンル	演劇 音楽
事業のねらい	若い世代が舞台芸術に対する興味や理解を深め、芸術分野の人材育成を行うための事業		
内　容	教育普及事業の一環として音楽家が学校に出向いて行うアウトリーチ・コンサート及びワークショップを都内小学校で実施した。 また、自らが出演する等、舞台芸術により深く関わるワークショップ「オペラをつくろう！」では、東京文化会館主催公演　オペラ BOX『カルメン』と連動したワークショップを実施した。 【開催日及び会場】 ・ワークショップ「オペラをつくろう！」9月21日～11月24日　（児童合唱）、8月27日～11月24日　（ダンサー）、8月3日、4日、11月23日（工作）、8月3日～11月24日　（演出・舞台装置、衣裳、照明、制作）、9月18日～11月24日　（合唱） ・アウトリーチ・コンサート　5月～26 年1月（計18校20回） （南陽小学校、御成門小学校、上板橋第四小学校、上川口小学校、元加賀小学校、言問小学校、城山小学校、出雲小学校、南綾瀬小学校、清瀬第四小学校、亀高小学校、立由木西小学校、立川南小学校、小山小学校、東調布第一小学校、大正小学校、白桜小学校、東浅川小学校） ・アウトリーチワークショップ ・はじめての楽しいコンサート　8月3日　東京文化会館 ・ワークショップクリニック　　白桜小学校（全4回）、千束小学校（全5回） 【参加者数等】　　7,537 人		

成　　果	課　　題	今後の方向性
●学校内で実施する事業については、生の演奏に触れる機会の少ない児童のみでなく、保護者にも体験する良い機会を提供できた。 ●東京文化会館の小ホールの機能（演奏、演出、照明、舞台）をフルに活用し、上演したことは大きな成果である。 ●東京音楽コンクールの入賞者を起用したことは、アーティストの発掘として、大きな成果である。	■「オペラをつくろう！」のワークショップについては、多数の参加者への対応をよりスムーズに行うため、運営側の更なるスキルアップと人材の確保、安定した運営体制を構築する必要がある。 ■アウトリーチに関しては、参加校が限定されることがないように、幅広く実施すること。 ■継続的なメディアへの露出が必要である。	学校内で実施する事業については、生の演奏に触れる機会の少ない児童のみでなく、保護者も体験できる良い機会を提供できた。今後は、ワークショップの開催に向けて、更に綿密な計画を立て、引き続き他の文化施設との連携も図っていく。また、アウトリーチに関してもプログラム内容の充実を図り、都内全域への広報を行っていく。

事業名	Museum Start あいうえの	事業開始	平成２５年度
政策目標	次世代の担い手となる子供・青少年たちへ、芸術文化の多様な創造活動を体験する機会を提供し、創造性に満ちた豊かな感性の育成を目指す事業	ジャンル	美術
事業のねらい	子供たち、特にミュージアムをこれまで利用していない子供たちや来館が困難な子供たちを対象に、「見る、聞く、話す、手を動かす、対話する」などの直接的な体験を通して、子供たちが主体的に文化資源と関わり合う環境づくりを、美術館や博物館といった館種を超えて推進する。		
内　容	【開催日及び会場】　／　東京都美術館ほか 【先生と行く美術館（学校向けプログラム）】スペシャル・マンデー・コース　6 月～26 年 2 月（プレ企画含む）、通常開室日コース 9 月～26 年 3 月 【こどもと家族の美術館（個人向けプログラム）】8 月～26 年 2 月 【ミュージアム・スタート・パック】上野にある 9 つの施設を巡るための教育ツールを制作し配布した。8 月～26 年 3 月 （※ビビハドトカダブック（ノート）、9 つの館のオリジナルバッジ、肩掛けバッグのセット） 【ウェブサイト】上野にある 9 つの施設の情報を編集した特設ウェブサイトを構築。 【参加者数】　　2,191 人		

成　　果	課　　題	今後の方向性
●事業実施初年度として、コンテンツ開発と運営体制の確立を同時に行う課題の多い年であったが、多くの参加者から、この事業の狙いと合致する意見・感想をもらうことができた。 ●9つの文化施設の連携もスムーズに行うことができ、信頼関係を築くことができた。 ●運営面では、スタッフ間で効率的に分担されるとともに、相互の連携とサポートによって、適切な運営が行われた。 ●雑誌等からの取材、スタッフブログ等により、個々の企画や取組を詳しく紹介できた。	■上野の文化施設が連携して行っていることを、ウェブサイト等で可視化したので、今後はより連携が深まるよう、継続的にプログラムや広報上での連携を目指す。 ■多彩なプログラム内容を、わかりやすく訴えるためのメディアへの露出の工夫が求められる。	事業実施初年度として、コンテンツ開発と運営体制の確立に力を注ぎ、結果として多くの参加者から好評を得た。上野の9つの文化施設の連携もスムーズに行うことができ、信頼関係を築くことができた。今後は、文化施設の連携を意識した広報を継続するとともに、未来館者層に働きかけるプログラムを検討する。

事業名	東京アートポイント計画	事業開始	平成２１年度
政策目標	アーティストと市民が協働するプログラムをまちなかで展開するとともに、創造型ＮＰＯ等と協働し、教育、環境など他分野と連携しながら、地域の文化創造拠点を生み出す事業	ジャンル	
事業のねらい	東京の様々な地域にある人・まち・活動をアートによって結ぶことで東京のさまざまな魅力を創造・発信することを目指す。都内各地に人・まち・活動の接点である「アートポイント」を作り出すことで、人々に新しい発見や創造の契機をもたらす。		
内　容	（１）東京全体及びまちなかの多様な地域資源をアートで結び、その魅力をアートプロジェクトを通じて創造・発信していく「アートプログラム」、（２）都内各地で人・まち・活動をアートで結び、「アートポイント」を作り出していく人材を育成する「人材育成プログラム」、（３）アートを媒介とした地域ネットワークづくりの中心となる、まちなかの具体的な拠点を形成する「拠点形成事業」を複合的に展開した。 【実施事業】 (1)墨東まち見世アートプラットフォーム(2)TERATOTERA(3)ぐるぐるヤ→ミ→プロジェクト(4)小金井アートフル・アクション！(5)としまアートステーション構想(6)アートアクセスあだち　音まち千住の縁(7)三宅島大学(8)長島確のつくりかた研究所:だれかのみたゆめ(9)川俣正・東京インプログレス―隅田川からの眺め(10)アーティスト・イン・児童館(12)東京事典(13)Tokyo Art Research Lab 【来場者数】　128,847 人		

成　　果	課　　題	今後の方向性
●事業開始から５年目を迎え、各事業でより成熟したプロジェクトが可能となり、各地で交流拠点が形成されつつある。初年度からの主幹プロジェクトであった「墨東まち見世」が地域のプラットフォーム形成を達成したことで終了となった。 ●地元自治体との共催事業もあり、資金以外の地元の協力も得られた。 ●事業の安定感が高まり、人材が確実に育っている。	■人材は確実に育っているが、必ずしも組織運営に寄与しているとはいえず、組織のあり方や事務局運営のあり方で課題を残しているＮＰＯもある。 ■小規模団体はスタッフ不足により、企画実施に追われている団体もあり、スキルアップの機会を十分にとれるようにすることが課題である。 ■終了していく事業の、その後のケアをどうしていくかが課題である。	事業開始から5年目を迎え、各事業でより成熟したプロジェクトが可能となり、各地で交流拠点が形成されつつある。主幹プロジェクトであった「墨東まち見世」が地域のプラットフォーム形成を達成したことで終了となった。今後は、新規NPOを開拓するとともに、円滑なスタートが切れるよう、的確な支援を行っていく。

事業名	国際会議「文化の力・東京会議２０１３」	事業開始	平成２３年度
政策目標	「世界的な文化創造都市・東京」を国内外にアピールするとともに、国内外の関係者が東京に集うプログラムや事業を展開し、ネットワークを強化する事業	ジャンル	
事業のねらい	「文化の力で社会変革」をテーマに、世界とのネットワークの中で文化の重要性とポテンシャルを考え、新しい社会像について議論する。		
内　容	【開催日及び会場】 【1】連続セミナー（4回開催）6 月 12 日、26 日、7 月 3 日、8 月 6 日／3331Arts Chiyoda 【2】本会議「文化の力・東京会議2013」／10 月 25 日／都庁都民ホール 【3】リトリート会議／10 月 26 日／ 国際交流基金 JFIC ホール「さくら」 【来場者数等】　延 414 人		

成　　果	課　　題	今後の方向性
●「文化から見た新しい経済像」をテーマに、様々な立場の実践者、研究者等が集い、経済的側面にとどまらない文化の重要性を議論したことで、意義のある会議だったといえる。 ●連続セミナーを開催し、優れた事例を紹介したことは有意義な試みだった。 ●事前の広報の狙いどおりに、関心のある層の参加が得られた。	■個々の連続セミナーは深い議論が行われていたが、本会議との繋がりをより明確にすべきだった。 ■継続的な会議の開催による、ネットワークの形成を考える必要がある。 ■メディアへの露出方法を見直し、より幅広い層への呼びかけを行う必要がある。	テーマに基づき、様々な立場の実践者、研究者等が集い、文化の重要性を議論したことで意義のある会議となった。また、連続セミナーを開催し、優れた事例を紹介したことは有意義な試みだった。今後は、出演者をはじめ、関係機関等との一層の交流を図るとともに、国際招聘プログラムとの連携を検討していく。

事業名	国際招聘プログラム	事業開始	平成２３年度
政策目標	「世界的な文化創造都市・東京」を国内外にアピールするとともに、国内外の関係者が東京に集うプログラムや事業を展開し、ネットワークを強化する事業	ジャンル	
事業のねらい	東京の文化の海外への発信と国際ネットワークの構築を図る。		
内　容	世界各国の若手の芸術・文化関係者 10 名を東京クリエイティブ・ウィークス期間中に招聘、都内の様々な文化事業・施設を視察、関係者やアーティストとの意見交換や交流を行った（9月29日～10月7日）。 【開催日及び会場】・招聘者との意見交換会／9月30日／国際交流基金 JFIC ホール「さくら」 ・文化事業視察／滞在期間中 ・関係者やアーティストとの面談等／滞在期間中 【来場者数等】　招聘者：10人　招聘者との意見交換会参加者４３人		

成　　果	課　　題	今後の方向性
●日本側関係者との面談や事業の視察を通して、被招聘者とのネットワークの構築を図ることができた。 ●多彩なプログラムと参加者のニーズに応える時間も設けることができ、充実した内容となった。 ●被招聘者の東京の文化・芸術に対する関心が一層深まり、今後、何らかのアウトプットに発展する足掛かりとなった。	■招聘者が参加するプログラムに偏りがあったため、見直しが必要である。 ■南米など他地域からの候補者もリサーチすることが必要である。 ■ネットワークを今後さらに発展させるための方法を検討する必要がある。	招聘者と日本側関係者との面談や事業の視察等を通して、ネットワークの構築を図ることができた。今後は、東京の文化について、より理解を深めるプログラムを提供するとともに、国際会議との連携を検討していく。